

## アイデンティティ発達と社会との関係性の関連

- 3 時点の縦断データを用いた検討 -

○日原尚吾<sup>1,2</sup>・井増永希美<sup>1</sup>

(1 広島大学大学院教育学研究科, 2 日本学術振興会特別研究員)

## 問題

青年期はアイデンティティ発達の時期とされるが、発達の軌跡は多様であることが解明されつつある (Luyckx et al., 2013)。日本にも、青年前期から青年後期開始までのアイデンティティ発達の多様な軌跡を検討した研究はあるが (Hatano & Sugimura, 2017), こうした研究は始まったばかりであり、様々な指標を用いた検討が望まれる。

本研究は、アイデンティティ発達の多様な軌跡を抽出し、各軌跡の適応・不適応の縦断的特徴を検討する。本研究の強みは3点ある。第一に、青年後期の発達軌跡を日本で初めて検討する。第二に、従来検討されていない行動指標 (向社会的行動, 外在化問題) および日本青年に顕著な不適応 (ひきこもり, 自殺念慮) の指標を用いる。第三に、大規模 ( $N = 940$ ) かつ社会経済的地位に多様性のあるサンプルを用いて、頑健な知見を提供する。

## 方法

**対象者と手続き** 高等教育機関に通う学生 940 名が、質問紙による 3 時点 (6 か月間隔) の縦断調査に参加した (Time1 の平均年齢は 20.6 歳)。

**質問紙構成** (a) アイデンティティ: 多次元アイデンティティ発達尺度 (中間他, 2015) (25 項目;  $\alpha_s = .81-.88$ )。 (b) 向社会的行動: 強さと困難さアンケート (SDQ; 菅原他, 2005) の“向社会的行動” (5 項目;  $\alpha_s = .66-.67$ )。 (c) 外在化問題: SDQ の“行為問題” (5 項目;  $\alpha_s = .51-.61$ )。 (d) ひきこもり: ひきこもり親和性尺度 (内閣府, 2010) (4 項目;  $\alpha_s = .78-.84$ )。 (e) 自殺念慮: BDI-II (小嶋・古川, 2003) の自殺念慮の 1 項目。

## 結果

アイデンティティ発達の軌跡を、潜在クラス成

長分析により抽出した。Nagin (2005) の基準から、7 クラスを採択した。①達成維持 (A), ②モラトリアム維持 (M), ③探索モラトリアム維持 (SM), ④拡散型拡散維持 (DD), ⑤無問題型拡散維持 (CD), ⑥達成から無問題型拡散 (A to CD), ⑦無問題型拡散悪化 (CD 悪化) の軌跡が抽出された。

適応・不適応の各指標の切片と傾きの個人差を、潜在成長モデルにより算出した。適合度は十分であった ( $CFIs = .997-1.000$ ;  $RMSEAs = .000-.038$ )。

アイデンティティの軌跡による適応・不適応の縦断的特徴を検討するため、発達軌跡を独立変数、適応・不適応指標の切片と傾きを従属変数とする分散分析を行った (Table 1)。向社会的行動は①A と③SM で高く、低下しやすかった。外在化問題は⑤CD と⑥A to CD で高く、ひきこもりは②M と④DD で高かった。自殺念慮は②M, ④DD, ⑦CD 悪化で高く、④DD で上昇しやすかった。

## 考察

本研究は、アイデンティティの軌跡により、行動および日本青年に顕著な不適応の縦断的特徴が異なることを示し、従来の研究を拡張した。アイデンティティ形成に積極的な①A と③SM は適応的だが、発達途上のため不安定な面もあることが示唆された。アイデンティティ形成に無頓着な⑤CD と⑥A to CD は、短絡的に攻撃行動などの外在化問題に陥りやすいことが示された。アイデンティティ形成に苦悩する②M と④DD と⑦CD 悪化は、行動よりもひきこもりや自殺念慮などの心理的問題を示しやすかった。特に苦悩しながらも形成に向けた行動に取り組めない④DD は、高い自殺念慮がさらに高まりやすく危険である。発達軌跡に適した教育的・臨床的対処が望まれる。

Table 1. アイデンティティ発達の軌跡による適応・不適応の指標の縦断的特徴

指標	範囲		①A	②M	③SM	④DD	⑤CD	⑥AtoCD	⑦CD悪化	F値(6, 933)	$\eta_p^2$	多重比較
向社会的行動	1-3	切片	2.26	2.03	2.16	1.77	1.96	2.03	1.85	28.50***	.16	①,③>⑥,②,⑤>⑦,④
		傾き	-0.05	-0.03	-0.04	-0.02	-0.03	-0.04	-0.02	19.27***	.11	④,⑦>⑤,②,⑥>③,①
外在化問題	1-3	切片	1.42	1.34	1.39	1.44	1.47	1.47	1.41	6.18***	.04	⑤,⑥>②; ⑤>③
		傾き	0.02	0.02	0.02	0.03	0.02	0.03	0.02	0.82	.01	
ひきこもり親和性	1-6	切片	3.75	4.37	4.04	4.59	3.82	3.74	3.91	15.11***	.09	④,②>③>⑤,①,⑥; ④,②>⑦
		傾き	-0.05	-0.03	-0.02	-0.04	-0.05	-0.06	-0.07	1.43	.01	
自殺念慮	1-4	切片	1.38	1.66	1.47	1.86	1.47	1.40	1.65	10.63***	.06	④,②,⑦>⑤,⑥,①; ④,②>③
		傾き	0.00	0.03	0.01	0.07	0.01	0.01	0.03	4.50***	.03	④>①,③,⑤,⑥

注. ①A = 達成維持 ( $n = 95$ ); ②M = モラトリアム維持 ( $n = 125$ ); ③SM = 探索モラトリアム維持 ( $n = 194$ ); ④DD = 拡散型拡散維持 ( $n = 48$ ); ⑤CD = 無問題型拡散 ( $n = 294$ ); ⑥A to CD = 達成から無問題型拡散 ( $n = 104$ ); ⑦CD悪化 = 無問題型拡散悪化 ( $n = 80$ ); \*\*\* $p < .001$ .